十八編上
へ13
3013
18

特
へ13
3013
18

天保丙申

柳亭種彦作

侫紫田舍源氏

第十八編上冊

仙鶴堂壽梓

歌川國貞画

孟春發行

侫紫田舍源氏第十八編叙

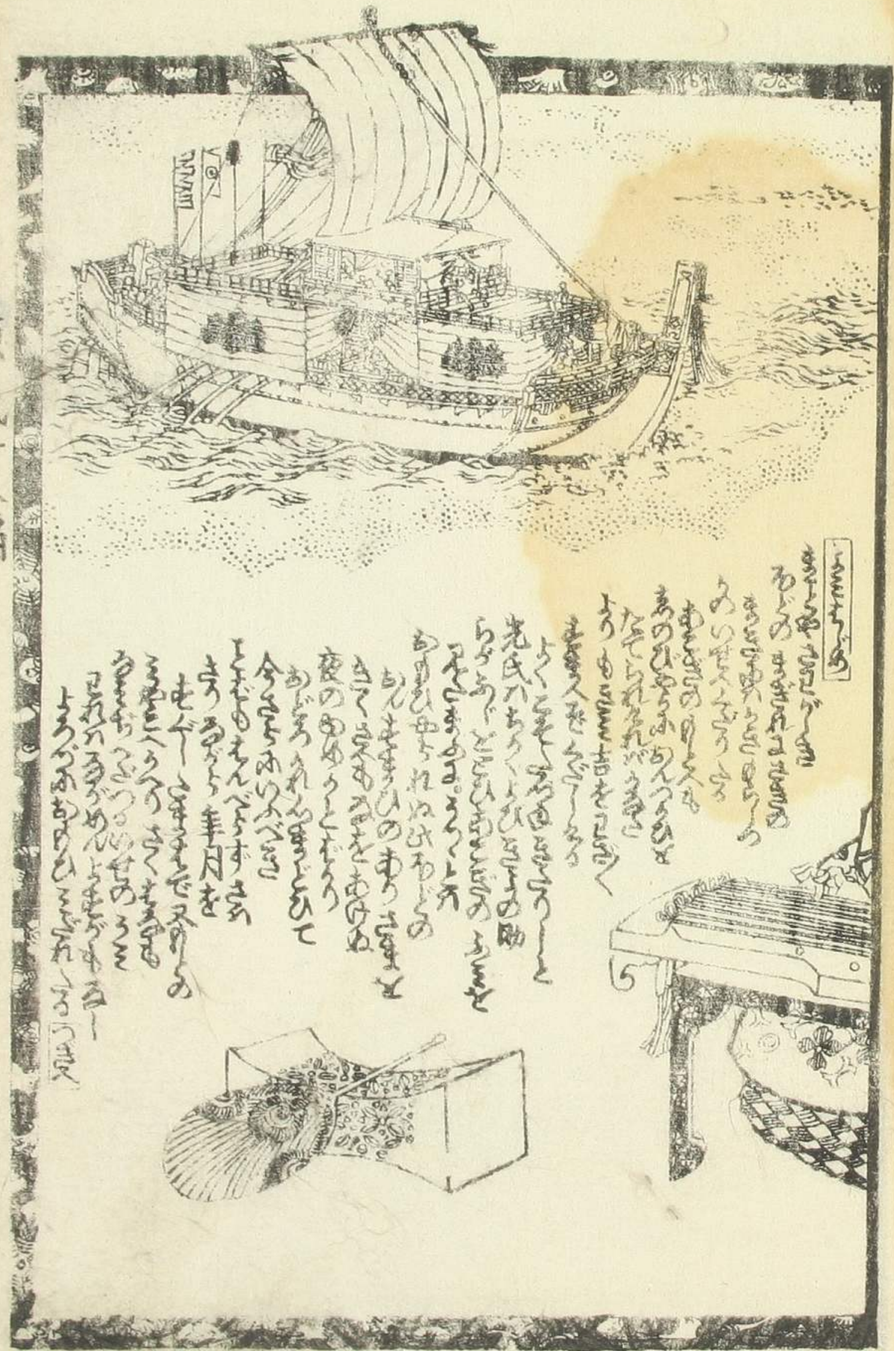
猿猴のもの長物語およそぬ湖水の月を取んと山王の樹木に彫刻度十八編賣出ものも申の春孫彦玄孫におしうつる宇治十帖のまゑまでは從事端末の系圖の混乱書より難く思へども二間堂の佛より御見に屓の光りこのまゝ三万三千三百丁續なるはありで初年より今まで耻と拵八年是も猿にて縁のなる當ふといふは草紙の吉瑞拠んで投し蟹の甲這こゝる程といふ須磨より明石の巻にうつれり

天保丙申孟春

柳亭種彦記

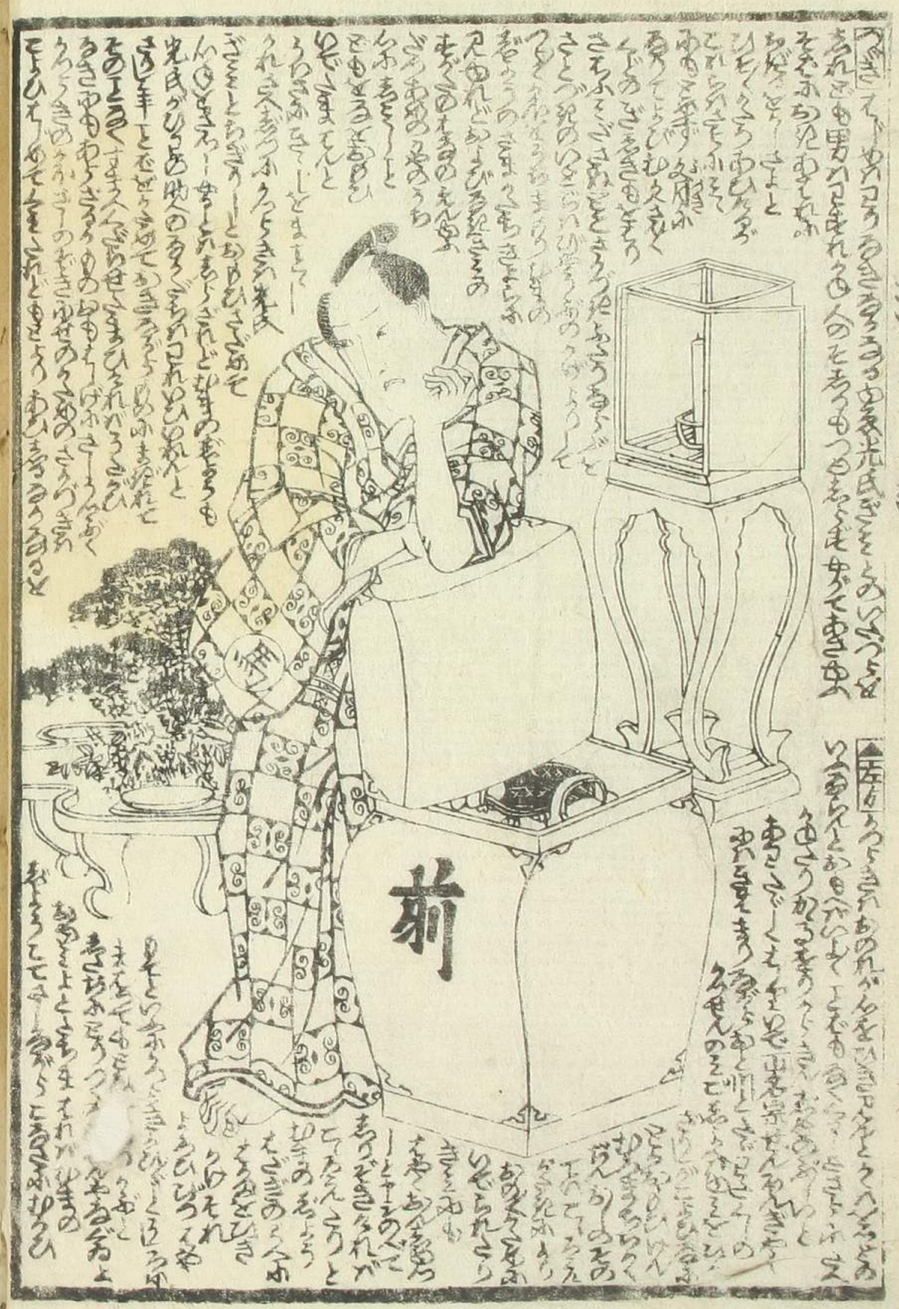
仁木の女
萩

足利
光氏



源氏十一編

勢州度會の
岩より君吉と
使として
須ナの浦へ
阿古木文をそまる


前

光

仙鶴堂藏板目録

字寶節用千金藏　大全書状案文

源氏百人一首宝文庫　女用文章色紙染

御家正流　子供案文

柳亭隨筆　還魂紙料　初編既刻　二編近刻

田舎源氏文集のかゝひ　上仕立入　廿八編目奥書よりすぢめて縫ぞ　中ぬけ略ぞ　ぞ山の風流の作る様ぶ　あり　歳年もみきれいに製し　おきゃいは用歌上に

はる遊び代表入　小絵ぞうし　種彦作書　貞秀画図

昔咄　火焚しぢゝア　全二冊

同　きもちゃんこんし　全二冊

同　浦島爺　全三冊

茶番のいろは　全二冊

昔咄　楠判官　以上先年　近刻　全三冊

同　おぼろき判官　全三冊

地本類東錦繪問丸御摺物所　鶴屋喜右衛門

四貞母
田合源氏
十八編下

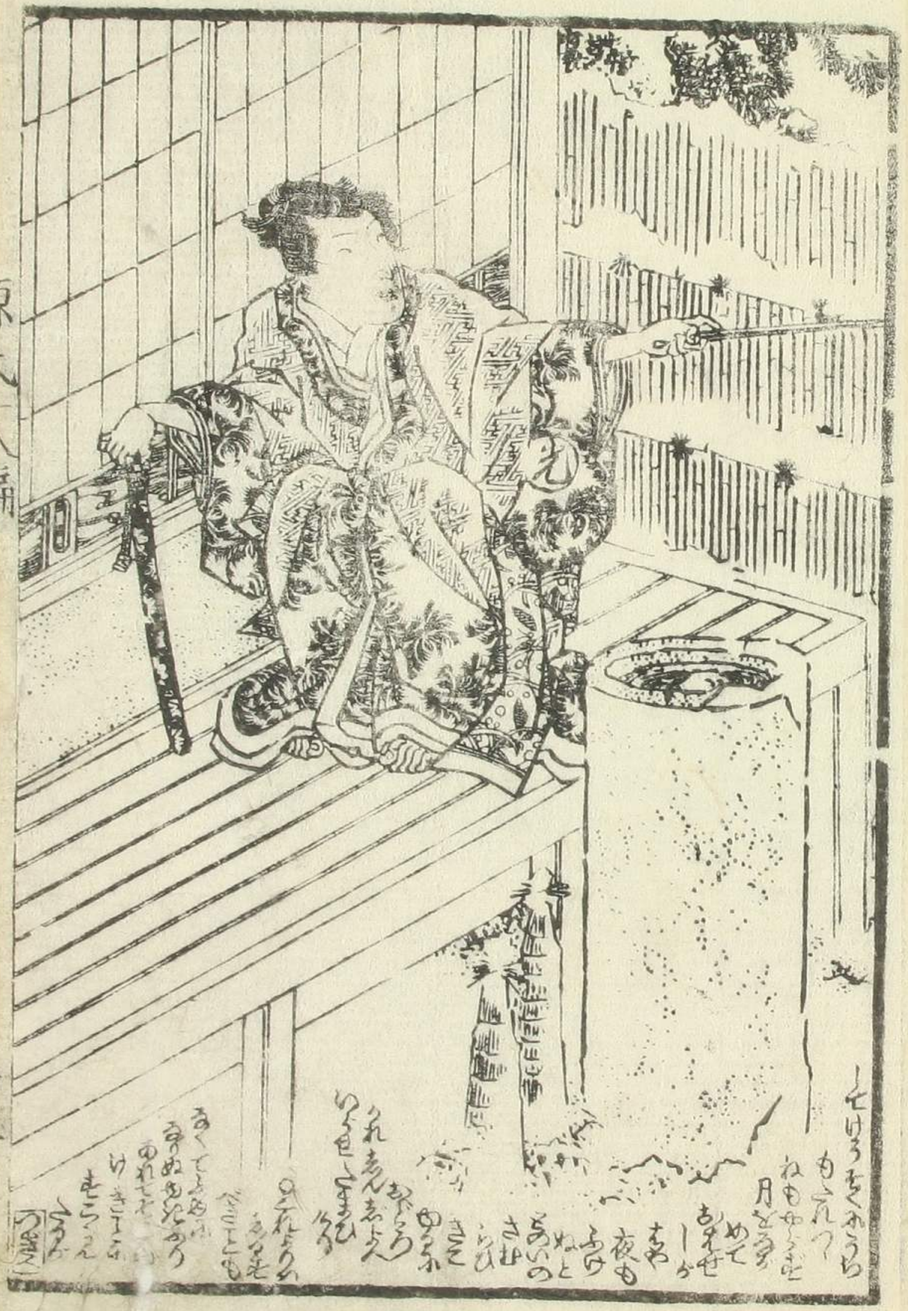
爲奈伽けん

十八編

下冊

種彦作
國貞画

通油町
鶴屋
上梓



柳亭種彦作 歌川國貞画

淨書　千形道友

偐紫田舍源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

三十四編の初めにて玉かづらより初まりにうつり下冊はしてゐの巻とあり三十五編上冊のすゑには蛍の巻をつゞり下冊のをはりは常夏にて三十六編上に續き下冊にかゞ里火はづりに二葉野にまきも三十七編の上にて書はてなとふさ巻御幸に次て藤はぢ[illegible]は三十八編は書をさめさせ以上五帙は母の新板子の暮まるゝに三帙製本二帙は母の正月に夢ゆ[illegible]中は五十四帖紙三千帖たゞ本道彫刻も全く御見立の所にさゐるを不お[illegible]御[illegible]を備て奉希は

仙鶴敬白

美艶仙女香
黒油美玄香
製所 南傳馬町三丁目西側 坂本氏
取次

書物錦繪
團扇地紙
問屋
江戸通油町
鶴屋喜右衛門